

於： 鬼城草庵

東北大鬼城句会報 二〇〇七年五月二五日(金)

〔第一回句会〕

兼題：春の海・新茶・更衣・山葵

村上翁・選 ◎特選◎佳作◎並選 (無い文字は特選句 E X 加雨選)◎

◎摩気様カメヲ居並ぶ春の海

※摩気様を獵うカメヲを通して、春の海に臨場感溢れている。

◎平穩の日々の明け暮れ立葵

※立葵には、變遷な非日常性が隠されているようだ。

◎マネキンの一足先に更衣

※マネキンを利用するお店などでは、更衣の時期は「一足先に」なのでしよう。

◎息災の日をいづくしむ新茶の香

※平凡な息災の日々に、新茶を酌めば心は却ちほのぼのとなる。

◎江ノ電の家並み抜けて春の海

※江ノ電の路線を行けば、期待をしている乗客には特になる風景が現れそうです。

◎山葵田や鉄糸網の守る聖地

◇青梅の三つほども落ち落ち着がす

◇新人の声落ち着きて五月行く (下五は五月尽では如何?)

◇直庵の薄暗がりや額の花

◇湧水の傘を宿す山葵かな

◇松を剪る音と新茶を染しめり

◇水音を辿り来れば山葵生ふ

◇更衣天の香具山思ひけり

◇生葉(なりわひ)のほろ苦きこと新茶の味

◇春陽や泥の靴音に覚えあり

※「春の日や子の」とあつさり表現したほうが良さそうです。

◇風穿む丸糸守れ羅帳

◇病癒えふると旅す花山葵

□更衣今は不要の自由人

二釣糸にひたすら見入る春の海

〔互選高点句・特選句より〕

二点 山葵田や鉄糸網の守る聖地

平穩の日々の明け暮れ立葵

息災の日をいづくしむ新茶の香

巡礼の額と瀬戸内春の海

一点 大輪の芍薬咲きぬ更衣

愛蔵の俊介絵元り新茶飲む

横の子も頬杖つきて杜若(かきつばた)

春の池水輪とつりと松がりぬ

夕館には猶み来し三つ葉ひとり酒

村上翁製作

島蔭に落暉消え行く春の海

梅雨近しやらねばならぬこと数多

貞風

蓮田池

蓮田池

蓮田池

修人

坂口青郎

如雨

村上郁子

弁慶

隆一

柳子

弁慶

貞風

貞風

修人

竹風

興山

坂口青郎

蓮田池

蓮田池

幸風

井慶

如雨

隆一

青紀